オーディオ実験室収載

Brooklyn DAC+の試聴(19)
―SDIF 入力(1)―

１． はじめに

Brooklyn DAC+の試聴(5) ではデモ機による SDIF 入力の試聴を報告していますが、今回は、導入後の Brooklyn DAC+ の SDIF 入力の試聴を本格的に実施します。

２． Brooklyn DAC+の試聴方法

Brooklyn DAC+の試聴(5)で報告したとおり、TASCAM DA-3000 から 3 本の BNC ケーブルで Brooklyn DAC+に入力します。BNC クロックケーブルは、Brooklyn DAC+の WORD Clock BNC 入力端子に接続します。BNC ディジタルケーブルは Brooklyn DAC+のディジタル入力端子 1 と 2 に接続するのですが、この端子は RCA タイプですので、BNC→RCA 変換コネクターを介在させます。なお、DA-3000 には、ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

設定に関しては、9.2.17 Coaxial Function のところで S/PDIF と SDIF の切り替えがありますので、SDIF を指定すると、9.2.1 Input の表示も SDIF(SDIF L-R)の表示になり、これを指定します。ついで 9.2.5 Sync のところで WCK (Word Clock) を指定します。さらに、9.2.6 SDIF Rate を DA-3000 から送られてくる 5.6MHzDSD に合わせて×128 に設定します。

音源は、BPODCH の再生と BS 録画を DMR-UBZ1 で再生し、Sonica DAC 経由で DA-3000 に入力し、DA-3000 から 5.6MHzDSD に変換して Brooklyn DAC+に送り出します。

３． Brooklyn DAC+の試聴結果

表示は、DSD×128 となり、DMR-UBZ1 における BPODCH の再生と BS 録画再生

を、DA-3000 から受けて再生が可能です。クロックに関しては、WCK 以外に INT も選択可能ですが、ノイズが発生します。

音質は、他の入力の場合と同様、MYTEK DIGITAL 192-DSD の SDIF 入力に比べて、見通しがよくすっきりとした音質です。BPODCH では、音が緻密で細かい音まで拾ってくれ、楽器の質感もリアルです。

４．まとめ

DA-3000→Brooklyn DAC+の SDIF 入力が可能になり、BPODCH の再生と BS 録画の再生の音質が満足いくものでした。

以上